2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月11日

上 場 会 社 名	Recovery International株式会社	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	9214	URL	https://www.recovery-group.co.jp/
代　　表　　者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名)	柴田　旬也
問合せ先責任者	(役職名) 経営管理部部長	(氏名)	山本　浩史　(TEL) 03-5990-5882
配当支払開始予定日	―		

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有　（　個人投資家向け　）

(百万円未満切捨て)

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	2,416	25.6	99	△6.7	117	6.1	58	18.3
2025年12月期第３四半期	1,924	―	106	―	110	―	49	―

(注) 包括利益　2026年12月期第３四半期　58百万円(　18.3%)　2025年12月期第３四半期　49百万円(　―%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	45.07	44.72
2025年12月期第３四半期	36.27	36.00

(注)2025年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、2025年12月期第３四半期の前年同四半期増減率については記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	1,385	799	57.2
2025年12月期	1,347	774	57.2

(参考) 自己資本　2026年12月期第３四半期　792百万円　2025年12月期　771百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2026年12月期	―	0.00	―		
2026年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,430	27.5	215	6.0	218	5.1	151	18.6	113.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　無

新規　　―社（社名）　　、除外　　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	1,414,000株	2025年12月期	1,414,000株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	109,502株	2025年12月期	83,102株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	1,308,842株	2025年12月期３Ｑ	1,374,398株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。上記の予想に関する事項は、添付資料３ページ「１.当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧下さい。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社の決算補足説明資料は、決算発表後速やかにTDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。また、2026年11月13日(金)に個人投資家向け決算説明会を開催する予定です。その模様(動画)及び説明内容(書き起こし)については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 8
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間における我が国経済は、米国の通商政策による影響が自動車産業等を中心に一部にみられるものの、雇用や所得環境の改善に支えられ、全体としては緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、深刻化する人手不足に加え、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー・原油価格の高止まりや、これに伴う物価上昇の継続を背景とする世界経済の動向など、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが属する訪問看護業界においては、団塊ジュニア世代が全員65歳以上に達することで高齢者数がピークを迎え、医療・介護費の負担の増加が拡大する2040年問題を見据えて、高齢者の病気や障害があっても安心できる高度な医療・介護へのニーズ、また住み慣れた地域で暮らしたいという在宅医療へのニーズに応えることができる体制を構築することが急務となっております。

このような状況のもと、当社は『もう一人のあたたかい家族』 を理念に掲げ、ご利用者様に寄り添った高品質な訪問看護サービスをより多くの方に提供すべく、主力事業である訪問看護サービス事業の積極的な専門人材の確保と新規拠点開設に取り組んでおります。また、コメディカル人材紹介事業におきましては、人材採用や広告宣伝費等の先行投資を行いつつ、従業員のエンゲージメントを高める組織づくりに取り組み、さらなる市場開拓を推進しております。

この結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高2,416,591千円（前年同期比25.6％増）、営業利益は99,412千円（前年同期比6.7％減）、経常利益は117,186千円（前年同期比6.1％増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は58,986千円（前年同期比18.3％増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（訪問看護サービス事業）

当事業においては、既存拠点の稼働率向上と地域医療ニーズに応えるための専門性の高い看護師等の採用・育成に注力いたしました。特に、４月における看護師等の積極的な採用を進めたほか、神奈川県初出店となる川崎市をはじめ、板橋区、豊島区、墨田区、国分寺市へ新たに開設し、全国の事務所数は41拠点へと拡大いたしました。また、これら新規出店による拠点数の増加や採用人員の稼働が進んだことが売上に寄与し、順調に業容を拡大しております。この結果、売上高は2,287,574千円（前年同期比22.3％増）となり、セグメント利益は627,754千円（前年同期比17.1％増）となりました。

（コメディカル人材紹介事業）

当事業においては、企業理念の策定、教育体制の整備、評価制度の刷新による組織体制の強化、及び営業オペレーションの改善等による営業体制の早期戦力化を推進いたしました。また、人材採用や広告宣伝費等の先行投資を行うとともに、紹介ニーズの積極的な取り込みを図りました。この結果、売上高は129,017千円（前年同期比141.7％増）となり、セグメント損失は11,546千円（前年同期は34,050千円のセグメント損失）となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における流動資産は1,213,624千円（前連結会計年度末残高1,195,884千円）となり、前連結会計年度末に比べ17,740千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が22,168千円減少した一方で、売掛金が50,094千円増加したことによるものであります。

固定資産は171,579千円（前連結会計年度末残高152,042千円）となり、前連結会計年度末に比べ19,537千円増加いたしました。これは主に、のれんが5,999千円、長期前払費用が5,249千円減少した一方で、繰延税金資産が28,788千円増加したことによるものであります。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における流動負債は449,419千円（前連結会計年度末残高403,607千円）となり、前連結会計年度末に比べ45,811千円増加いたしました。これは主に、未払費用が25,937千円、預り金が12,083千円減少した一方で、賞与引当金が92,943千円増加したことによるものであります。

固定負債は136,205千円（前連結会計年度末残高169,950千円）となり、前連結会計年度末に比べ33,744千円減少いたしました。これは主に、長期借入金が31,164千円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産は799,578千円（前連結会計年度末残高774,368千円）となり、前連結会計年度末に比べ25,209千円増加いたしました。これは主に、自己株式の取得により37,658千円減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益58,986千円を計上したことによる利益剰余金の増加によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の通期の業績予想につきましては、2026年２月16日の「2025年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表の業績予想数値に変更はありません。

今後、業績予想を修正する必要が生じる場合は、速やかに開示してまいります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	587,195	565,026
売掛金	545,071	595,165
前払費用	37,232	50,018
その他	26,715	3,776
貸倒引当金	△330	△363
流動資産合計	1,195,884	1,213,624
固定資産		
有形固定資産	6,943	5,239
無形固定資産		
のれん	73,328	67,328
商標権	1,137	1,641
無形固定資産合計	74,466	68,970
投資その他の資産	70,632	97,369
固定資産合計	152,042	171,579
資産合計	1,347,926	1,385,203
負債の部		
流動負債		
１年内返済予定の長期借入金	39,996	39,996
未払金	55,047	56,596
未払費用	182,223	156,286
未払法人税等	63,694	52,585
未払消費税等	1,092	3,440
預り金	58,263	46,180
賞与引当金	－	92,943
役員賞与引当金	2,262	－
その他	1,027	1,390
流動負債合計	403,607	449,419
固定負債		
長期借入金	137,840	106,676
退職給付に係る負債	26,741	23,545
資産除去債務	5,369	5,984
固定負債合計	169,950	136,205
負債合計	573,557	585,625
純資産の部		
株主資本		
資本金	203,544	203,544
資本剰余金	189,544	189,544
利益剰余金	504,140	563,127
自己株式	△125,877	△163,536
株主資本合計	771,350	792,679
新株予約権	3,018	6,899
純資産合計	774,368	799,578
負債純資産合計	1,347,926	1,385,203

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
売上高	1,924,045	2,416,591
売上原価	1,099,457	1,390,043
売上総利益	824,588	1,026,548
販売費及び一般管理費	718,075	927,136
営業利益	106,512	99,412
営業外収益		
受取利息	853	1,436
助成金収入	3,786	12,343
その他	972	6,234
営業外収益合計	5,611	20,014
営業外費用		
支払利息	1,281	1,879
その他	349	361
営業外費用合計	1,631	2,240
経常利益	110,492	117,186
特別利益		
固定資産売却益	51	－
特別利益合計	51	－
特別損失		
固定資産除却損	－	50
特別損失合計	－	50
税金等調整前四半期純利益	110,544	117,135
法人税、住民税及び事業税	78,137	86,936
法人税等調整額	△17,446	△28,788
法人税等合計	60,690	58,148
四半期純利益	49,853	58,986
親会社株主に帰属する四半期純利益	49,853	58,986

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
四半期純利益	49,853	58,986
四半期包括利益	49,853	58,986
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,853	58,986

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) １	四半期連結損益計算書計上額(注) ２
	訪問看護サービス事業	コメディカル人材紹介事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,870,669	53,376	1,924,045	－	1,924,045
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	1,870,669	53,376	1,924,045	－	1,924,045
セグメント利益又は損失(△)	535,975	△34,050	501,924	△395,412	106,512

(注)１．セグメント利益又は損失の調整額△395,412千円は、報告セグメントに帰属しない管理部門等の一般管理費等であります。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、当中間連結会計期間より子会社RePath株式会社を連結の範囲に含めたことに伴い、「訪問看護サービス事業」と「コメディカル人材紹介事業」に区分しております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間において、子会社であるRePath株式会社がM&Aにより有料職業紹介事業等を譲り受けたことに伴い、「コメディカル人材紹介事業」セグメントにおいて、のれんの金額が79,994千円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) １	四半期連結損益計算書計上額(注) ２
	訪問看護サービス事業	コメディカル人材紹介事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,287,574	129,017	2,416,591	―	2,416,591
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	2,287,574	129,017	2,416,591	―	2,416,591
セグメント利益又は損失(△)	627,754	△11,546	616,208	△516,795	99,412

(注)１．セグメント利益又は損失の調整額△516,795千円は、報告セグメントに帰属しない管理部門等の一般管理費等であります。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却費は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)
減価償却費	3,569千円	2,795千円
のれん償却費	4,666千円	5,999千円